

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 野竹将司

① 学習成果

私は、今回の留学を通して留学に対する意欲がより強く変化しました。台湾での学習を通して私の意欲をより高めた要因は大きく分けて三つあります。一つ目は、現地の優秀な生徒達との出会いです。私たちのチューターの生徒や、現地で声をかけて見た生徒、OB会に参加されていた社会人の皆様との会話を通して私の専門分野のより新鮮な台湾の現状などを知ることができました。台湾の大学生はほぼ全ての人が英語を流暢に話すことができていることに驚き、英語学習のモチベーションも大きく上がりました。二つ目は、中国語学習によって、コミュニケーションの幅が広がったことです。留学以前は、かろうじて単語を用いてコミュニケーションを取れるほどでしたが、連日の練習の成果によって、文章で現地の人とコミュニケーションを取ることができるようになりました。私は、大学三回生の冬から海外留学に行こうと考えている途中ですが、中国語圏内も自分にとっての選択肢に加えることができたように感じます。三つ目は、事前学習や、現地の大学生、OBさんとの交流を通して、半導体産業についての理解をより深めることができたということです。半導体の大手であるTSMCと他社や、日本と台湾の違いについて、より深く知ることができました。

② 海外での経験

海外で実際に生活する経験を通して、日常的な言葉の言い回しや、年齢層による言葉の使い方(若年層と、他の層での言葉の使い方の違い)や、より日常的な言葉遣い、中国本土と台湾の言語の違い、食文化、交通手段の大きな違い、政府の取り組みなどを直接体験することで、教科書では学べない貴重な学習機会になりました。

③ プログラム内容

今回のプログラムは、基本的な言語を学習する講義と、台湾の文化を体験する授業の二つに分かれていました。前者に関しては、自分のレベルよりも少しハイレベルなクラスに参加することで、難しくはありましたが、リスニングや文法の能力を大きく向上させることができました。また、後者についても、出来る限り現地の学生と話す時間を確保して、中国語のレベルを向上させ、現地の政治的な過去や、祝日などの風習、お茶や交通に関する文化などに触れることができました。

④ 進路への影響

先述しましたように、私は三回生の後期から一年程の交換留学を考えています。今回の留学を通して、中国語圏がより身近な候補になりました。